



「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

3Cクラスは、全クラスで最も多い11台のエントリー。4戦を終えて、ランクトップは#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」。それをわずか3P差で#62「RTカーライフ名古屋WN CLNシビック」が追う。#111「S'tecAE-1ファジートレノ」と#87「瀬戸自動車SYC シビック」にもチャンスはありすべてはこの最終戦で決着する。

■予選

予選でトップタイム記録したのは#87「瀬戸自動車 SYC シビック」1'01.526、全体でも3番手の好タイム。それに続くのは#106「D&M スパイクオート 106」1'03.329とポテンシャルアップで予選2番手。3番手はランクトップの#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」1'03.475 で今シーズン2勝目を狙う。4番手#72「SWEET SIGNAL パルサー」1'04.661 は速さも増してきた。5番手#62「WN CLNシビック」1'04.747、6番手#75「DXL シーワン EP82」1'04.797 と僅差でグリッドに並ぶ。7番手#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」1'05.326、8番手#450「トルネオの大冒険」1'05.575、9番手#318「T-FACTORY 318is」1'05.660、10番手#1「ミュルサンヌ MR-S」1'06.396、11番手#91「BRP DXL スターレットターボ」1'07.093。どのチーム・マシンも、夏から秋のラウンドに比べタイムアップしておりその力は拮抗している。どのチームが勝ってもおかしくない。



ランキングは2位 #87

■序盤

序盤から飛ばすのは予選トップの#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、現在ランキング4位だが、逆転チャンピオンの可能性が残されているだけに意気が上がる。それを追うのは#62「WN CLNシビック」、ランキング2位のこちらにも逆転する気満々。3番手を行くのは#72「SWEET SIGNAL パルサー」、シーズン序盤に比べ戦闘力の向上が見られ第3戦では表彰台にのぼる活躍を見せた、この最終戦でも台風の目となるか。



激戦でタイトル獲得 #62

4番手は#106「D&M スパイクオート 106」。マシンのモデファイを行ったらしく、好調をキープ。5番手#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、パワー的にはいくぶん不利だが、3P 差を跳ね返して逆転タイトルを狙うチャンス。



惜しい！ #33

その次に現在ランキングトップの#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」、耐久レース少数派の期待を背負ってのタイトル獲得へ向けて序盤から離されるわけにはいかない。

7番手走行は#75「DXL シーワン EP82」、ベテランチームがつける。ターボパワーに有利な冬を味方につけてジャンプアップを狙う。8番手は#1「ミュルサンヌ MR-S」、9番手#450「トルネオの大冒険」、10番手#91「BRP DXL スターレットターボ」、11番手#318「T-FACTORY 318is」の順。ミッドシップ、FR、インポートカーなどさまざまな車種が競うのが GT 耐久東海シリーズのいいところ。



孤軍奮闘！ クラス唯一のFR車

■中盤

中盤になってもトップをキープするのは#87「瀬戸自動車 SYC シビック」、2位#62「WN CLNシビック」以下#33「ボディショップ國盛ミラーージュ」などが同一周回で続く。どのマシンも順調に周回を重ねている中、#450「トルネオの大冒険」のボンネットが開くトラブルが発生、残念ながらリタイヤ。こうしたトラブルは注意すれば防ぐことができるだけに少々残念。また、#91「BRP DXL スターレットターボ」も周回数が増えてこないのがきがかかりだ。

Race Report

■終盤

終盤戦に向けても各チーム僅差の争いが続く。ゴールまで残り30分を切った時点での周回集は、トップ#87「瀬戸自動車 SYC シビック」118Lap、2位#62「WN CLNシビック」118Lap、3位#72「SWEET SIGNAL パルサー」117Lap、4位#33「ボディショップ 國盛ミラーージュ」117Lap、5位#318「T-FACTORY 318is」117Lap、6位#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」116Lap、7位#75「DXL シーワン EP82」114Lap、8位#1「ミュルサンヌ MR-S」、9位#106「D&M スパイクオート 106」97Lap、10位となっているが、#106 はマシントラブルから戦列を離れることに。1年間の戦いもうすぐゴールが訪れる。

■最終結果

ゴールまであと10分少々となった最終盤、#72「SWEET SIGNAL パルサー」と#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」が接触、#111は緊急にタイヤを交換し戦列に復帰するが大きく順位を落としてしまう。

そして栄光のチェッカーをクラストップで受けたのは、#87「瀬戸自動車 SYC シビック」。途中ピット戦略で首位を明け渡すことはあったが、最後は総合でも2位に入る136Lapを走っての今シーズン2勝目を手にした。

2位は#62「WN CLNシビック」、1Lap差まで詰めたが惜しくも2位。3位はこれまたしぶとく走った#33「ボディショップ 國盛ミラーージュ」が表彰台。

4位は予選9番手から追いつけた#318「T-FACTORY 318is」、5位は、#72「SWEET SIGNAL パルサー」、6位#75「DXL シーワン EP82」、7位#1「ミュルサンヌ MR-S」、8位には緊急ピットインから復帰した#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」、9位#91「BRP DXL スターレットターボ」という順で、途中戦列を離れた106「D&M スパイクオート 106」も完走扱いとなった。



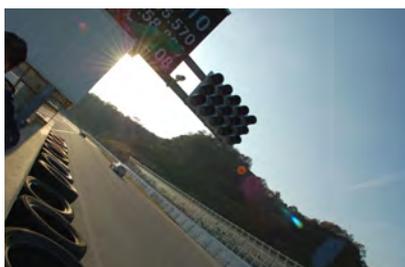
接触があったものの5位入賞 #72



いまこういうクルマは出ないのですかね #75



クラス唯一のMR #1



不運に泣いた最終戦 #111



日欧ホットハッチ対決 #91

Race Report

GT-CAR PRODUCE



予選から好調だったが・・・ #106



トラブルでリタイヤはもったいない #450



■総評

この結果、チャンピオン争いでは#62「WN CLNシビック」と#33「ボディショップ 國盛ミラージュ」が95Pと同点で並ぶことに。規定により上位得点の獲得回数が多い#62「WN CLNシビック」が王者に決定、#33「ボディショップ 國盛ミラージュ」は惜しくも2位。

年間3位はチャンピオンと同じく2勝をあげた#87「瀬戸自動車 SYC シビック」が90Pと追いつけた。数字上はチャンスのあった#111「S'tecAE-1 ファジートレノ」は終盤の接触で後退したのが惜まれるが、それでも4位は立派だ。

さまざまな車種や駆動方式、過給器の有無が入り乱れて見ごたえのあるシーズンだった。来季は新たなチャレンジャーが現れるのか大いに期待したい。

